

2012（平成24）年度

日本医学会年次報告

2013年2月20日

日本医学会

目 次

1. 日本医学会総会	1
1) 「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」の準備	1
2. 日本医学会幹事会	3
3. 日本医学会定例評議員会	4
4. 日本医学会分科会との臨時協議会	4
5. 日本医学会法人化組織委員会	4
6. 日本医学会シンポジウム	5
1) 日本医学会シンポジウム	5
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会	5
3) 日本医学会シンポジウム記録 (DVD)	6
4) 日本医学会シンポジウムの要旨	6
7. 日本医学会公開フォーラム	7
1) 日本医学会公開フォーラム	7
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会	7
3) 日本医学会公開フォーラム記録 (DVD)	8
8. 日本医学会医学用語管理委員会	8
9. 日本医学会分科会用語委員会	9
10. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	9
11. 日本医学会加盟検討委員会	11
12. 日本医学会あり方委員会	12
13. 日本医学会臨床部会運営委員会	12
14. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	13
15. 日本医学会利益相反委員会	13
16. 日本医学会分科会利益相反会議	14
17. 日本医学会社会部会 Japan CDC (仮称) 創設に関する委員会	15
18. 日本医学雑誌編集者組織委員会	15
19. 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム	16
20. 日本医学会だより	17
21. 情報発信	17
22. 会議等の開催数	18
23. その他	19
綴じ込み	
日本医学会だより No.47	20
日本医学会だより No.48	22
新型インフルエンザ等対策特別措置法案に慎重な審議を求めます	24
実験動物への配慮を求める	25
改正労働契約法について、参議院 梅村さとし議員に対応をお願いしました	26

1. 日本医学会総会

1) 「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」の準備

「医学と医療の革新を目指して－健康社会を共に生きるきずなの構築－」をメインテーマとした「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」の準備としては、組織委員会のもと、各委員会を招集し、討議を重ね、2013 年 1 月現在、下記の諸点を決定した。

1. 企画委員会

3 回の委員会を開催し、総会に関する重要な方針を討議し、各委員会からの企画の連携・調整を行った。具体的には、プログラムの柱、プレイベント、登録料案、広報活動案等の確認を行った。

2. プログラム委員会

3 回の委員会を開催した。プログラムの柱と担当委員の決定、今後の進め方について確認した。メインテーマを生かして「医学」「医療」「きずな」の 3 つのサブテーマのもとに各々 6～8 の柱に区分し、合計 20 の柱を選定した。今後、日本医学会加盟分科会の協力を得て、演者の選考を進めたいと考えている。また、産業医の研修単位取得セッションの設置については、日本医師会と連携を持ちながら検討を進める予定である。

なお、「第 28 回日本医学会総会」が震災の影響で一堂に会した総会開催ができなかったことより、医学会総会を継続性のある事業として位置づけるため以下の 3 つのプレイベント企画を実施、検討している。

①医療チーム学生フォーラム

医学生、薬学生、看護学生を主役として、未来の医療従事者が現在の医学・医療の諸問題について横断的に語り合う場を提供し、医学会総会 2015 関西で「学生の立場からの提言」として結実することをめざしている。

②日本医学会との共同プレイベント

日本医学会が例年開催しているシンポジウムや日本医学会主催の公開フォーラムを、第 29 回医学会総会のプレイベントという位置付けのもとに、関西地区での実施をお願いする。

③近畿医師会連合企画シンポジウムの開催

関西6府県の各医師会が中心となり、医学会総会2015のメインテーマに沿って、関西各医師会が会員向けに地域色のある独自のシンポジウムを企画、実施する。

3. 展示委員会

2回の委員会を開催した。一般市民向けに公開する展示テーマについて「医と健康の博覧会2015」(案)をベースに検討中である。集客目標として一般市民、医学会総会参加者を合わせて25万人を考えている。

公開展示案として会場をディスカバリー、メディカル、サイエンス、ウエルネスの4つのアイランドに分け、将来の健康社会構築に向けた議論の場を提供する。また、医学・医療の最先端の紹介を通じて、特に未来を担う小学校高学年～中学・高校生に、医学・医療を中心とした科学への興味や夢を抱いてもらう企画を検討している。

4. 広報委員会

1回の委員会を開催した。参加登録促進を目的とした広報活動を展開していくことが大きな目的であることが確認され、加えて一般市民に向けた広報活動を展示委員会との連携の中で行っていく必要性を議論した。総会のシンボルマークに込めた思いに合わせて、開催告知用のポスターデザイン制作にも取り掛かった。また、本総会のホームページを開設した(<http://www.isoukai2015.jp/>)。

5. 登録委員会

1回の委員会を開催した。過去26回、27回、28回総会を参考にして、医師・歯科医師やコメディカル登録費設定について討議した。事前参加登録期間は2014年4月～2015年1月末を考えている。

6. 総務・記録・財務・式典委員会

合同で1回の委員会を開催した。募金活動の進め方や旅行会社によるホテルやツアーの提案、学術案内等の制作物の確認、開会式・閉会式等の演目や記念品の検討を行った。今後、それぞれの委員会にて詳細を決定する。

7. ソシアルイベント委員会

京都府医師会の全面的な協力を得て医師会内にプロジェクト委員会を立ち上げていただき、1回の委員会予備会合を開催した。交歓行事はゴルフ・ラグビー・硬式テニス等15種目を開催する方向で、関西圏の医師会の協力を得て検討することとした。

8. 会期

学術講演：2015（平成27）年4月11日（土）～4月13日（月）

公開展示：2015（平成27）年3月28日（土）～4月5日（日）

9. 会場

学術講演：国立京都国際会館，グランドプリンスホテル京都，京都大学，他周辺会場

公開展示：神戸国際展示場

一部の市民公開イベント，セミナーはJR京都駅周辺会場で開催予定

10. 事務局

「第29回日本医学会総会2015関西」組織委員会事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町 京都大学医学部D棟1階111号室

Tel/Fax：075-752-6025

E-mail:jimukyoku@isoukai2015.jp URL:<http://www.isoukai2015.jp/>

事務局長：中村 泰三

2. 日本医学会幹事会

第9回日本医学会幹事会を，平成25年2月20日（水）に開催。主な議題は，「平成24年度日本医学会年次報告」，「平成25年度日本医学会事業計画」，「日本医学会の法人化について」等である。

3. 日本医学会定例評議員会

第80回日本医学会定例評議員会を、平成25年2月20日（水）に開催。主な議題は、「平成24年度日本医学会年次報告」、「平成25年度日本医学会事業計画」、「日本医学会の法人化について」等である。

4. 日本医学会分科会との臨時協議会

平成24年10月25日に日本医学会分科会臨時協議会を開催し、日本医学会が一般社団法人化を進めるにあたり、分科会と意見交換を行った。出席者は高久会長、門田副会長、金澤一郎（日本医学会あり方委員会委員長）、富野康日己（日本医学会法人化組織委員会委員長）、池田康夫（日本医学会法人化組織委員会委員）、24学会が出席した。

5. 日本医学会法人化組織委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、平成23年度に新設された委員会（発足当時は日本医学会法人化準備委員会）で、本年度より名称を日本医学会法人化組織委員会に変更した。委員は富野康日己（委員長）、里見 進（副委員長）、池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、麦島秀雄、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。

本年度は2回開催した。第3回委員会は平成24年8月15日に開催、第4回委員会は平成25年1月24日に開催。

6. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

次のとおり2回開催した。

・第142回日本医学会シンポジウム

テーマ：糖尿病治療の最近の進歩

開催日：平成24年6月21日（木）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員：春日 雅人（国立国際医療研究センター総長）

河盛 隆三（順天堂大学大学院教授）

門脇 孝（東京大学大学院教授 糖尿病・代謝内科）

参加者数：497名

・第143回日本医学会シンポジウム

テーマ：がんの一次予防と二次予防

開催日：平成24年12月20日（木）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員：津金昌一郎（（独）国立がん研究センター・がん予防・検診研究センター予防研究部）

祖父江友孝（大阪大学医学部 環境医学）

浜島 信之（名古屋大学大学院・予防医学）

斎藤 博（（独）国立がん研究センター・がん予防・検診研究センター検診研究部）

参加者数：284名

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

日本医学会シンポジウム企画委員会（委員：栗原裕基，岡野栄之，春日雅人，前原喜彦，小林廉毅）は，日本医学会シンポジウムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり開催した。

・第17回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成24年5月16日）

第143回シンポジウムを下記のとおり決定した。

テーマ：がんの一次予防と二次予防

組織委員：津金昌一郎（（独）国立がん研究センター・がん予防・検診研究センター予防研究部）

祖父江友孝（大阪大学医学部 環境医学）

浜島 信之（名古屋大学大学院・予防医学）

斎藤 博（（独）国立がん研究センターがん予防・検診研究センター検診研究部）

・第18回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成24年11月9日）

第144回シンポジウムを下記のとおり決定した。

テーマ：臨床応用をめざしたiPS細胞研究

組織委員：岡野 栄之（慶応義塾大学医学部生理学教室）

小室 一成（大阪大学医学部循環器内科／東京大学医学部循環器内科）

中内 啓光（東京大学医科学研究所細胞治療研究センター）

3) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「第142回日本医学会シンポジウム：糖尿病治療の最近の進歩」, 「第143回日本医学会シンポジウム：がんの一次予防と二次予防」のシンポジウムの全容を, DVDに制作し, 関係各位に謹呈した。

また, DVDの内容は, 日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

4) 日本医学会シンポジウムの要旨

要旨は, 日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。第142回シンポジウム「糖尿病治療の最近の進歩」：第141巻第7号（平成24年10月号）, 第143回シンポジウム「がんの一次予防と二次予防」：第141巻第12号（平成25年3月号予定）。

7. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

次のとおり2回開催した。

- ・第13回日本医学会公開フォーラム

テ－マ：認知症の早期診断・治療とケア

開催日：平成24年6月9日（土）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員長：岩坪 威（東京大学大学院医学系研究科教授）

参加者数：437名

- ・第14回日本医学会公開フォーラム

テ－マ：高齢者医療の今－運動器不安定の最新の知見－

開催日：平成24年10月20日（土）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員長：大島 伸一（独立行政法人国立長寿医療研究センター総長）

参加者数：202名

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕，池田康夫，五阿弥宏安，高杉敬久）は，日本医学会公開フォーラムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり2回開催した。

- ・第14回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成24年5月16日）

企画委員会で第14回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ－マ：高齢者医療の今－運動器不安定の最新の知見－

組織委員長：大島 伸一（独立行政法人国立長寿医療研究センター総長）

- ・第15回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成24年11月7日）

企画委員会で第15回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ－マ：高齢者の疾患－生活の質の向上のために－

組織委員長：大内 尉義（東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座教授）

3) 日本医学会公開フォーラム記録（DVD）

「第13回日本医学会公開フォーラム：認知症の早期診断・治療とケア」, 「第14回日本医学会公開フォーラム：高齢者医療の今－運動器不安定の最新の知見－」のフォーラムの全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

8. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、委員長：脊山洋右（医学中央雑誌刊行会理事長／大学評価・学位授与機構客員教授）、副委員長：大江和彦（東京大学大学院教授）、小野木雄三（国際医療福祉大学三田病院教授）、河原和夫（東京医科歯科大学大学院教授）、坂井建雄（順天堂大学大学院教授）、清水英佑（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長）、田中牧郎（国立国語研究所准教授）、辻 省次（東京大学大学院教授）、森内浩幸（長崎大学大学院教授）、山口 巖（茨城県総合健診協会会長）、山口俊晴（癌研有明病院副院長）の11名により構成されている。

本年度は、2回開催した。第3回医学用語管理委員会（平成24年6月28日）の主な議題は、1. 報告（①. persistent vegetative stateの日本語訳について、②. expiratory vital capacityの日本語訳について等）、2. 南山堂との交渉について、3. 分科会との用語の調整について、4. 行政用語について、である。

第4回医学用語管理委員会（平成24年12月4日）の主な議題は、1. 分科会用語集調査一覧について、2. 分科会用語委員会打合せ、である。

第5回医学用語管理委員会は3月27日に開催予定。

9. 日本医学会分科会用語委員会

平成 24 年度日本医学会分科会用語委員会を平成 24 年 12 月 4 日に開催した。主な議題は、1. 日本医学会医学用語辞典について、2. 日本医学会医学用語辞典と日本形成外科学会用語集との統合について、3. 用語の採択法について、4. 日本小児科学会での取り組みについて、5. 日本医学会用語辞典アップデート－分科会用語集との関係改善を目指して、6. 解剖学用語が目指してきたもの－標準化、整合性、明瞭性、7. 日本医学雑誌編集者会議とその課題について、8. 質疑応答、である。

10. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は平成 24 年 8 月 29 日（水）に開催された。

委員構成は会長・副会長・幹事を中心に構成。これに特例委員として、山口 徹（虎の門病院病院長）、中村耕三（国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長）、池田勝久（順天堂大学医学部主任教授）、高橋 浩（日本医科大学付属病院眼科部長）、堀江重郎（帝京大学医学部泌尿器科学主任教授）、の 5 氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞 4 名、医学研究奨励賞 15 名が選考され、11 月 1 日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第 141 巻第 10 号）に掲載した。

[平成 24 年度日本医師会医学賞]

・幹細胞システムにおける細胞分化機構の解明

仲野 徹／阪大・病理学

・魚食により摂取される環境汚染物質の健康影響とリスク評価に関する研究

佐藤 洋／内閣府食品安全委員会

・日本人の虚血性心疾患に関する基礎的・臨床的研究

下川 宏明／東北大・循環器内科学

- ・ ABO 血液型不適合腎移植への挑戦－免疫学的禁忌の克服と臨床応用の普及

高橋 公太／新潟大・腎泌尿器病態学

[平成 24 年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・ 新規細胞接着分子システムが動脈硬化を制御する分子機構

扇田 久和／滋賀医大・分子病態生化学

- ・ 腸管上皮培養技術を応用した全腸管組織体外構築の試み

中村 哲也／医歯大・消化管先端治療学

- ・ ミトコンドリアダイナミクスによるエネルギー代謝調節機構の解明からナノ治療へ

野村 政壽／九大・内分泌代謝・糖尿病内科学

- ・ 膵臓癌の早期診断法の開発に関する研究

谷内田真一／国立がん研究センター研究所

- ・ 脳磁計による神経義手制御と ALS 患者への適応

柳澤 琢史／阪大・脳神経外科学

- ・ 社会格差と健康～行動経済学的アプローチによるメカニズム解明

橋本 英樹／東大・公衆衛生学

- ・ 東日本大震災被災地における保健医療従事者に対するこころのケア及び自殺対策の教育システムの構築を目的とした地域介入研究

大塚耕太郎／岩医大・神経精神科学

- ・ トランスレーショナルリサーチ実践による新しい急性心筋梗塞治療法の開発

南野 哲男／阪大・循環器内科学

- ・ 肝細胞癌の発症リスクに寄与するバイオマーカーの同定と有用性の検証

大石 和佳／放射線影響研究所

- ・ 日本人糖尿病患者の特徴と病態に関する臨床疫学的検討

曾根 博仁／新潟大・血液・内分泌・代謝内科学

- ・ 思春期注意欠如多動性障害へのペアレントトレーニングは愛着の神経基盤を変化させるか

石井 礼花／東大・精神神経科学

- ・急性中耳炎の難治化の病態解明と粘膜ワクチンによる感染予防に関する研究

保富 宗城／和医大・耳鼻咽喉科学

- ・発癌性ウイルス特異的免疫誘導を介した子宮頸癌に対する予防的・治療的薬剤の開発

川名 敬／東大・産婦人科学

- ・過活動膀胱における KIT-SCF シグナル伝達系からみた病態解明と臨床応用

窪田 泰江／名市大・腎・泌尿器科学

- ・免疫・アレルギー疾患の発症における皮膚の役割の解明

椛島 健治／京大・皮膚科学

11. 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会の委員は、委員長：久道 茂（日本医学会副会長／宮城県対がん協会会長）、委員：佐谷秀行（慶應義塾大学医学部教授）、宮園浩平（東京大学大学院医学系研究科長・医学部長）、山田信博（筑波大学長）、今中雄一（京都大学大学院医学研究科教授）、中路重之（弘前大学大学院医学研究科長・医学部長）、川崎誠治（順天堂大学医学部主任教授）、島田和幸（小山市市民病院病院長）、高本眞一（三井記念病院院長）、岡本眞一郎（慶應義塾大学医学部教授）、天谷雅行（慶應義塾大学病院副病院長）、大久保一郎（筑波大学人間総合科学研究科教授）、福原俊一（京都大学大学院医学研究科教授／福島県立医科大学副学長）の13名である。

平成24年度第1回日本医学会加盟検討委員会は平成24年11月28日に開催した。今年度の加盟申請の28学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成23年7月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

12. 日本医学会あり方委員会

日本医学会あり方委員会は平成16年に発足した。委員長：金澤一郎（日本医学会幹事／国際医療福祉大学大学院院長），委員：池田康夫（日本医学会幹事／早稲田大学理工学術院先進理工学部教授／日本専門医制評価・認定機構理事長），岡井 崇（日本医学会幹事／昭和大学医学部教授），實成文彦（日本医学会幹事／山陽学園大学・山陽学園短期大学副学長），富野康日己（順天堂大学医学部教授），中村耕三（国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長）の6名である。

第11回委員会は平成24年5月29日（火）に開催した。議題は「日本医学会が目指すもの」等についてフリーディスカッションが行われた。

第12回委員会は7月4日（水）に開催し，議題は「法人化について」であった。各分科会に対し「一般社団法人日本医学会の組織，運営に関する構想」についてアンケートを行うことを決定した。7月13日付けで金澤一郎日本医学会あり方委員会委員長及び富野康日己日本医学会法人化組織委員会委員長の連名にて日本医学会法人格を持つことの必要性について各分科会にアンケートを送り意見を伺った。

第13回委員会を9月13日（木）に開催した。各分科会からのアンケート結果をもとに「法人化について」検討した。

13. 日本医学会臨床部会運営委員会

日本医学会臨床部会運営委員会の委員は，10学会の基本領域学会と2学会のSubspecialty学会から構成している。基本領域学会委員：寺本民生，五十嵐隆，島田眞路，武田雅俊，國土典宏，持田讓治，落合和徳，石橋達朗，八木聰明，有賀 徹。Subspecialty学会委員：門脇 孝，永井厚志。

14. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成 23 年度に発足した委員会で、昨今、個人のゲノム解析が容易となる一方、日本では法制面、行政面、倫理・教育面などの社会的基盤としての整備が不十分であることから、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大学医学部教授）、委員：鎌谷直之（理化学研究所ゲノム医科学研究センター長）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授）、中村清吾（昭和大学医学部乳腺外科教授／大学病院ブレストセンター診療科長）、宮地勇人（東海大学医学部基盤診療医学系臨床検査学教授）、横田俊平（横浜市立大学小児科学教授）の 6 名で構成されている。

第 4 回委員会は平成 24 年 11 月 16 日に開催した。主な議題は、1. 無侵襲的出生前遺伝学的検査について、2. 遺伝学的モデルコアカリキュラムについて、である。

無侵襲的出生前遺伝学的検査については社会問題となっていることから、小西郁生日本産科婦人科学会理事長にご出席いただいた。今後も、日本産科婦人科学会と連携をとりながら検討を行っていく予定である。

第 5 回委員会は平成 25 年 2 月 21 日に開催予定。

15. 日本医学会利益相反委員会

平成 22 年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成 24 年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授／JA 高知病院院長）、委員：河上 裕（慶應義塾大学大学院医学研究科先端医科学教授）、高後 裕（旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授）、土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授）、平井昭光（レックスウェル法律特許事務所 所長）、水谷修紀（東京医科歯科大学副学長／産学連携本部長）、J.Patrick Barron（東京医科大学国際医学情報学主任教授）の 7 名で構成。

第 5 回委員会は平成 24 年 6 月 14 日に開催した。主な議題は、①透明性ガイドライ

ンへの日本医師会対応について、②製薬協の透明性ガイドラインの取り組み状況報告、③分科会の COI マネージメント事例について、④日本医学会 112 分科会における医学研究に係る利益相反（COI）対応の現状アンケート（案）、⑤第 3 回日本医学会分科会利益相反会議（案）、⑥他の学術団体、組織との連携（合同ワークショップ開催、メディア向けセミナー開催）、⑦製薬協傘下の企業へのアンケート調査等である。

第 6 回委員会は平成 24 年 10 月 12 日に開催した。主な議題は、①日本医学会 112 分科会における医学研究に係る利益相反（COI）対応の現状アンケート結果、②製薬協に加盟する会員会社へのアンケート調査、③第 3 回日本医学会分科会利益相反会議・シンポジウム開催、④日本医師会 COI 指針策定検討委員会報告、⑤ COI 問題への産学連携に係る関係団体との協議等である。

第 7 回委員会は平成 25 年 1 月 31 日に開催した。主な議題は、①第 3 回日本医学会分科会利益相反会議の総括（当日アンケート含）、②分科会へのアンケート調査結果の報告書、③日本製薬工業協会に加盟する会員会社へのアンケート調査結果、④医学関連 COI（利益相反）問題協議会への対応、⑤平成 25 年度事業計画等である。

16. 日本医学会分科会利益相反会議

第 3 回日本医学会分科会利益相反会議は、平成 24 年 11 月 22 日に開催した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

総会に引き続き、シンポジウムは、曾根三郎（徳島大学名誉教授／JA 高知病院院長）、平井昭光（レックスウェル法律特許事務所所長）の司会の下、下記のプログラムで開催された。

- ・産学連携推進による医学研究と COI マネージメントの意義／里見朋香（文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課課長）
- ・日本医学会分科会における COI マネージメントの現状と問題点／土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授）
- ・臨床医学研究と COI マネージメント／宮坂信之（日本学術会議臨床医学委員会臨

床研究分科会幹事)

- ・製薬企業における「企業活動と医療機関等との関係の透明性ガイドライン」の実施状況について／豊沢泰人（ファイザー株式会社執行役員経営政策管理本部長）
- ・医学研究にかかる産学連携の透明性：社会の視点からの在り方／浅井文和（朝日新聞東京本社科学医療部編集委員）
- ・COI マネージメントにおける具体的な問題点と改善に向けた対応策について／加来浩平（川崎医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科教授）

17. 日本医学会社会部会 Japan CDC（仮称）創設に関する委員会

「日本医学会社会部会 Japan CDC（仮称）創設に関する委員会」は平成 21 年に発足した。委員構成は、委員長：實成文彦（山陽学園大学・山陽学園短期大学副学長），委員：相澤好治（北里研究所常任理事），児玉和紀（放射線影響研究所主席研究員），佐甲 隆（桜木記念病院副院長），笠島 茂（三重大学大学院教授），祖父江友孝（大阪大学大学院医学系研究科教授），丸井英二（人間総合科学大学教授）の 7 名である。

本年度は 10 月 12 日（金）に第 5 回委員会を開催した。

「日本疾病予防情報センター（Japan CDC）創設に向けての提案」を作成し、関係機関へ提出予定。

18. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 20 年に発足した。委員構成は、委員長：北村 聖（東京大学医学教育国際協力研究センター教授），委員：木内貴弘（東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授），北川正路（東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐），津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学特任教授），根岸正光（国立情報学研究所名誉教授），三沢一成（特

定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会専務理事), 湯浅保仁 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授), 吉岡俊正 (東京女子医科大学副理事長) の8名である。

第9回日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成24年6月1日に開催した。①第5回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・第5回シンポジウム, ②「医学雑誌編集のガイドライン」, ③アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) クアラルンプール会議 (2012年8月31日～9月3日開催), アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) ・日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 合同会議 (2013年8月開催) 等について意見交換を行った。

第10回日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成24年9月28日に開催した。①第5回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・第5回シンポジウム, ②「医学雑誌編集のガイドライン」, ③アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) クアラルンプール会議 (2012年8月31日～9月3日開催), ④アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) ・日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 合同会議 (2013年8月2日～4日開催), ⑤「Editorial Seminar～医学雑誌の質の向上を目指して～ (平成24年11月2日開催)」等について意見交換を行った。

第11回日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成25年3月5日に開催予定。

19. 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム

第5回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・第5回シンポジウムは, 平成24年11月21日に開催した。詳細は, 日本医学会ホームページに掲載したので, 参照いただきたい。

第5回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会に引き続き, シンポジウムは, 北村 聖 (日本医学雑誌編集者組織委員会委員長/東京大学医学教育国際協力研究センター教授), 吉岡俊正 (日本医学雑誌編集者組織委員会委員/東京女子医科大学副理事長) の司会の下, 下記のプログラムで開催された。

・医学雑誌編集のガイドライン (案) の作成/北村 聖 (東京大学医学教育国際協力

- 研究センター教授) / 北川正路 (東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐)
- ・ 医学雑誌の全文公開 1. オープンアクセスとパブリックアクセス / 根岸正光 (国立情報学研究所名誉教授)
 - ・ 医学雑誌の全文公開 2. 論文の電子化 (PubMed Central に準じた XML ファイルの作成), 掲載論文の DOI の付与 / 宮川謹至 (独立行政法人科学技術振興機構調査役)
 - ・ 医学雑誌の全文公開 3. CrossCheck システムの導入 事例報告 1 / 榎本 裕 (日本泌尿器科学会編集委員会編集主幹)
 - ・ 医学雑誌の全文公開 3. CrossCheck システムの導入 事例報告 2 / 磯 博康 (日本疫学会 JE 編集委員長・理事)
 - ・ 日本発の臨床論文の動向 / 北村 聖 (東京大学医学教育国際協力研究センター教授)

20. 日本医学会だより

平成元 (1989) 年度より発行している日本医学会だより (JAMS News) は, 本年度, 5 月に No.47 を, 10 月に No.48 を発行した (綴じ込みの「日本医学会だより」を参照).

21. 情報発信

平成 12 年 10 月に日本医学会のホームページを開設した. 日本医学会分科会の協力を得て, 本会のホームページ (URL:<http://jams.med.or.jp/>) と分科会ホームページをリンクしている.

平成 24 年 4 月 10 日, 「新型インフルエンザ等対策特別措置法案に慎重な審議を求めます」を本会ホームページに掲載 (綴じ込み参照).

6 月 6 日, 日本医師会定例記者会見にて日本医師会と合同記者会見を行い, 動物愛護管理法の見直しに際して, 実験動物に対する配慮を求めた (綴じ込み参照).

10月29日、改正労働契約法について参議院の梅村さとし議員に対応をお願いした
(綴じ込み参照)。

22. 会議等の開催数

日本医学会協議会（会長，副会長）	11回
日本医学会幹事会	2回
日本医学会評議員会	1回
日本医学会法人化組織委員会	2回
日本医学会シンポジウム	2回
日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	2回
日本医学会公開フォーラム	2回
日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	2回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2回
日本医学会シンポジウム組織委員会	0回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2回
日本医学会公開フォーラム組織委員会	0回
日本医学会医学用語管理委員会	3回
日本医学会分科会用語委員会	1回
医学用語打ち合わせ会	0回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	1回
日本医学会あり方委員会	3回
日本医学会臨床部会運営委員会	0回
日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	2回
日本医学会臨床部会会議	0回
日本医学会利益相反委員会	3回

日本医学会分科会利益相反会議	1回
日本医学会社会部会 Japan CDC（仮称）創設に関する委員会	1回
日本医学雑誌編集者組織委員会	3回
日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・シンポジウム	1回
移植関係学会合同委員会	0回
記者会見	2回

23. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を平成 24 年 8 月に作成，関係各方面に配付した。
- 2) 「平成 25 年日本医学会分科会総会一覧」を平成 24 年 12 月に関係各方面に配付した。
- 3) 「日本医師会年次報告書－平成 24 年度－」および「日本医師会会務報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定。

日本医学会だより

JAMS News

2012年5月 No. 47
日本医学会

◆第79回日本医学会定例評議員会

平成24年2月22日に開催された。平成23年度年次報告、平成24年度事業計画の報告の他、第28回日本医学会総会終了報告、第29回日本医学会総会準備状況の説明があった。協議事項として学会長、副会長、幹事の選挙が行われ、会長に高久史磨、副会長に清水孝雄、久道茂、門田守人、幹事に野田哲生、相澤好治、池田康夫の各氏が選出された。任期は会長、副会長が平成24年4月1日から2年間、幹事は4年間。

平成23年度新規加盟学会は、日本脊椎脊髄病学会、日本緩和医療学会の2学会が承認され、112学会となった。また、「日本医学会法人化の件」が協議され、法人格を持つことと各学会が負担金を支出すること等が了承された。

◆第29回日本医学会総会 2015 関西

第29回日本医学会総会は、平成27年4月11日～13日、井村裕夫会頭の下、「健康社会のためのきずなの構築—医学と医療制度の未来を拓く」をテーマに、関西地区で開催することが決定している。副会頭は本庶 佑、山岸久一、平野俊夫、高井義美、森 洋一、準備委員長に三嶋理晃、幹事長に平井豊博が決定している。

◆日本医学会加盟検討委員会

平成23年度第1回日本医学会加盟検討委員会は、平成23年6月8日に開催され、日本医学会加盟検討委員会報告(平成23年7月)がまとめられた。本報告の新たな審査基準に則り、平成23年12月14日に開催された平成23年度

第2回日本医学会加盟検討委員会で加盟申請の25学会についての審査を慎重に行い、その結果を平成24年1月12日の日本医学会協議会で高久会長に報告した。

◆日本医学雑誌編集者会議

平成24年3月13日に開催された第8回日本医学雑誌編集者組織委員会において、「医学雑誌のオープンアクセス」をテーマとして、「第5回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第5回シンポジウム」を開催することが決定した。テーマ：医学雑誌のオープンアクセス、平成24年11月21日(水)、13:00～16:00、日本医師会館小講堂で開催の予定。

また、アジア太平洋医学雑誌編集者会議(APAME)・日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)合同会議を平成25年8月に開催予定であることやWPRIM掲載日本発行雑誌の現状が報告された。

◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会運営委員会は、日本医学会分科会の10の基本領域学会と2つのSubspecialty学会から委員構成されている。

運営委員会の下部組織として、平成23年度から、「遺伝子・健康・社会」検討委員会が設置された。

◆日本医学会臨床部会利益相反委員会

臨床部会利益相反委員会は、平成24年3月14日開催の第4回委員会において、「医学研究

における産学連携の透明化と COI マネージメント」をテーマとして、「第 3 回日本医学会分科会利益相反会議」を開催することが決定した。テーマ：医学研究における産学連携の透明化と COI マネージメント，平成 24 年 11 月 22 日（木），13：00～16：20，日本医師会館小講堂で開催の予定。

また，第 2 回日本医学会分科会利益相反会議参加者へのアンケート調査結果等が報告された。

◆日本医学会医学用語管理委員会

平成 23 年 12 月 20 日に平成 23 年度日本医学会分科会用語委員会を開催した。「日本医学会医学用語辞典と分科会用語辞典の調整について」「日本医学会医学用語辞典和英について」「ICD10 対応標準病名集マスターの現状報告」「第 4 回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) ・第 4 回シンポジウム報告」等が主な議題であった。

◆第 13 回日本医学会公開フォーラム

「認知症の早期診断・治療とケア」をテーマに，平成 24 年 6 月 9 日（土）13：00～16：00，日本医師会大講堂において開催する。組織委員長：岩坪 威・東京大学大学院医学系研究科教授。市民を対象とした公開フォーラムであり，参加希望者は，郵便はがき，FAX，本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは，下記のとおり。終了後，ホームページにて映像配信する。1. 認知症の早期診断・治療とケア：序論/岩坪 威(東京大学大学院医学系研究科教授・神経病理学)，2. 認知症と軽度認知障害/朝田 隆(筑波大学医学医療系臨床医学域教授・精神医学)，3. 認知症を画像で診る/石井賢二(東京都健康長寿医療センター研究所研究部長)，4. 認知症のリハ・ケアー脳活性化リハビリテーションで進行を防ぎパーソンセンタードケアで穏やかに暮らす/山口晴保(群馬大学大学院保健学研究科教授・リハビリテーション

学)，5. 家族の立場から/杉山邦博(日本福祉大学生涯学習センター長)

◆第 142 回日本医学会シンポジウム

「糖尿病治療の最近の進歩」をテーマに，平成 24 年 6 月 21 日（木）13：00～17：00 に，日本医師会館大講堂において開催予定。組織委員は，春日雅人，河盛隆造，門脇 孝の各氏。参加希望者は，上記フォーラムと同じ方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは，下記のとおり。終了後，ホームページにて映像配信する。序論/春日雅人(国立国際医療研究センター)，I. 糖尿病の病態と診断 1. 糖尿病の診断と病態の評価の進め方/植木浩二郎(東大)，2. 糖尿病の合併症とその評価の進め方/羽田勝計(旭川医大) II. 糖尿病治療の考え方 1. 治療の目標とエビデンスの考え方/荒木栄一(熊本大) 2. 食事・運動療法の考え方/渥美義仁(東京都済生会中央病院) 3. 薬物療法の考え方/加来浩平(川崎医大)，III. 糖尿病の薬物療法の実際 1. インスリン分泌促進薬/綿田裕孝(順天堂大) 2. インスリン抵抗性改善薬/戸邊一之(富山大) 3. インクレチン関連薬/稲垣暢也(京大) 4. インスリン療法/難波光義(兵庫医大)

◆医学賞・医学研究奨励賞

平成 24 年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞(旧医学研究助成費)の推薦依頼を日本医師会雑誌の 5 月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は，5 月 15 日～7 月 5 日。推薦書は，公示日より日本医師会ホームページ (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

◆日本医学会への加盟申請

平成 24 年度の日本医学会への新規加盟申請は，5 月 15 日に公示(日本医師会雑誌等)し，7 月 31 日に締め切る。申請書は，公示日から本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) にてダウンロードできる。

日本医学会だより

JAMS News

2012年10月 No. 48
日本医学会

■第143回日本医学会シンポジウム

「がんの一次予防と二次予防」をテーマに、12月20日(木)13:00~17:00, 日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、津金昌一郎, 祖父江友孝, 浜島信之, 斎藤博の各氏。参加申込みは郵便はがき, FAX, 本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPに掲載中。

■医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を8月29日(水)に開催し、平成24年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞13, 奨励賞40を審査した。

選考の結果、11月1日(木)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名, 奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・幹細胞システムにおける細胞分化機構の解明/仲野 徹(阪大・病理学)
- ・魚食により摂取される環境汚染物質の健康影響とリスク評価に関する研究/佐藤 洋(内閣府食品安全委員会)
- ・日本人の虚血性心疾患に関する基礎的・臨床的研究/下川宏明(東北大・循環器内科学)
- ・ABO血液型不適合腎移植への挑戦—免疫学的禁忌の克服と臨床応用の普及/高橋公太(新

潟大・腎泌尿器病態学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・新規細胞接着分子システムが動脈硬化を制御する分子機構/扇田久和(滋賀医大・分子病態生化学)
- ・腸管上皮培養技術を応用した全腸管組織体外構築の試み/中村哲也(医歯大・消化管先端治療学)
- ・ミトコンドリアダイナミクスによるエネルギー代謝調節機構の解明からナノ治療へ/野村政壽(九大・内分泌代謝・糖尿病内科学)
- ・膵臓癌の早期診断法の開発に関する研究/谷内田真一(国立がん研究センター研究所)
- ・脳磁計による神経義手制御とALS患者への適応/柳澤琢史(阪大・脳神経外科学)
- ・社会格差と健康—行動経済学的アプローチによるメカニズム解明/橋本英樹(東大・公衆衛生学)
- ・東日本大震災被災地における保健医療従事者に対するこころのケア及び自殺対策の教育システムの構築を目的とした地域介入研究/大塚耕太郎(岩医大・神経精神科学)
- ・トランスレーショナルリサーチ実践による新しい急性心筋梗塞治療法の開発/南野哲男(阪大・循環器内科学)
- ・肝細胞癌の発症リスクに寄与するバイオマーカーの同定と有用性の検証/大石和佳(放射線影響研究所)
- ・日本人糖尿病患者の特徴と病態に関する臨床疫学的検討/曾根博仁(新潟大・血液・内分

泌・代謝内科学)

- ・思春期注意欠如多動性障害へのペアレントトレーニングは愛着の神経基盤を変化させるか/石井礼花(東大・精神神経科学)
- ・急性中耳炎の難治化の病態解明と粘膜ワクチンによる感染予防に関する研究/保富宗城(和医大・耳鼻咽喉科学)
- ・発癌性ウイルス特異的免疫誘導を介した子宮頸癌に対する予防的・治療的薬剤の開発/川名 敬(東大・産婦人科学)
- ・過活動膀胱における KIT-SCF シグナル伝達系からみた病態解明と臨床応用/窪田泰江(名古屋市大・腎・泌尿器科学)
- ・免疫・アレルギー疾患の発症における皮膚の役割の解明/椛島健治(京大・皮膚科学)

◆日本医学会あり方委員会

第11回委員会を平成24年5月29日(火)、第12回委員会を7月4日(水)、第13回委員会を9月13日(木)にそれぞれ開催した。「日本医学会が目指すもの」、「法人化について」等が主な議題であった。

金澤一郎委員長の下、池田康夫委員、岡井 崇委員、實成文彦委員、富野康日己委員、中村耕三委員の6名で構成されている。

◆日本医学会法人化組織委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、平成23年度に新設された委員会で、本年度より組織委員会に名称を変更した。委員は池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、富野康日己、麦島秀雄、里見 進、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。本年度第1回委員会は8月15日(水)に開催された。

◆日本医学雑誌編集者会議

「医学雑誌のオープンアクセス」をシンポジウムテーマとした第5回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第5回シンポジウムを

北村 聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の総合司会の下、11月21日(水)13:00~16:00、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は本会HPにて受付中。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「『医学雑誌編集のガイドライン(案)』の作成」、「オープンアクセスとパブリックアクセス」、「論文の電子化(PubMed Centralに準じたXMLファイルの作成)」、掲載論文へのDOIの付与、ジャパンリンクセンターの開始、「CrossCheckシステムの導入(事例報告1、事例報告2)」、「日本発の臨床論文の動向」の講演が行われる予定。

◆日本医学会分科会利益相反会議

「医学研究における産学連携の透明化とCOIマネージメント」をシンポジウムテーマとした第3回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月22日(木)13:00~16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は本会HPにて受付中。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「産学連携推進による医学研究とCOIマネージメントの意義」、「日本医学会分科会におけるCOIマネージメントの現状と問題点」、「臨床医学研究とCOIマネージメント」、「製薬企業における『企業活動と医療機関等との関係の透明性ガイドライン』の実施状況について」、「医学研究にかかる産学連携の透明性：社会からの視点の在り方」、「COIマネージメントにおける具体的な問題点と改善に向けた対応策について」の講演が行われる予定。

◆医学用語管理委員会

6月28日(木)に第3回委員会を開催した。今後の予定としては平成24年度日本医学会分科会用語委員会を12月4日(火)15:00~17:00に日本医師会小講堂で開催する。

◆JapanCDC(仮称)創設に関する委員会

10月12日(金)に委員会を開催予定。

平成 24 年 4 月 10 日

日本医学会長

高 久 史 磨

新型インフルエンザ等対策特別措置法案に慎重な審議を求めます

新型インフルエンザ等対策特別措置法案が国会で審議中ですが、法の整備に十分な議論を尽くされますようお願いいたします。

本法律案は、病原性が高い新型インフルエンザや同様な危険性のある新感染症に対して、2009 年のパンデミックインフルエンザの教訓も踏まえ、必要な法制を整えておくために、政府行動計画等の策定、政府対策本部の設置等の措置、さらに新型インフルエンザ等緊急事態における特別な措置を定め、国民の生命および健康を保護し、国民生活及び国民経済に及ぼす影響が最小となるようにすることを目的としたもの、とされています。

1918 年から 1919 年に流行が始まり、世界中で 4,000 万人の生命を奪ったとされるスペイン風邪（インフルエンザ）や 2003 年に突然発生した重症急性呼吸器症候群（SARS）等、社会へ破壊的な影響をもたらす新たな感染症は歴史上の大きな教訓であり、決して備えを怠るべきではありません。一方、2009 年のパンデミックインフルエンザは、比較的病原性の低いウイルスだったという幸運もありましたが、治療法の進歩や我が国の医療制度、医療現場の卓越性も大きな役割を果たしました。法制度の整備の前提として、広く国民的な議論が必要だと考えます。

本法案に対しては、日本弁護士連合会長が懸念を表明されております。広く国民の議論を踏まえた上で慎重な審議、熟議を尽くして頂きますようお願い申し上げます。

実験動物への配慮を求める

高久日本医学会長は6月6日、日本医師会高杉常任理事と共に記者会見を行い、動物愛護管理法の見直しに際して、実験動物に対する配慮を求めた。

動物愛護管理法は、動物の生命を尊重し、愛護すること、動物による人の生命・身体・財産への侵害を防止することを目的として、昭和48年に制定されたものであり、5年に1度見直しが行われている。今回の見直しに当たっては、届出制または登録制の導入等、実験動物に対する規制強化が検討されていたため、日本医学会始め、日本再生医学会、日本実験動物学会、日本神経科学学会、全国医学部長病院長会議等からは、規制強化の見直しを求める要望が出されていた。

会見では、高久会長が、まず、日本の動物実験の現状について、(1) 実験動物は動物愛護管理法の外にあるものと考えられてきたため、2006年には文部科学省、厚生労働省、農林水産省が動物実験の実施に関する基本方針を制定している他、日本学術会議も詳細な指針「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」を制定している、(2) この制度は国際的にも認知され、その実効性を担保する第三者評価制度も所管省庁の指導の下で構築されている、(3) 実験動物を取り扱う医療機関では「動物実験倫理委員会」を設置し、実験動物を使用せざるを得ない理由を極めて厳格に審議し、承認された場合にだけ実験動物の使用を許しているだけでなく、犠牲死させる場合でも、実験動物に過度の苦痛を生じない手段を講じることを許可の条件としている、(4) 各大学医学部や医科大学では、毎年「実験動物慰霊祭」を全学的な行事として行っている—ことなどを説明。

その上で、高久会長は「医薬品、医療機器が輸入超過の状況にあるわが国では、日本独自のものを開発する必要があるが、そのためには、動物実験がかかせないものになっている。現行法下でも研究者たちは十分に注意し、かつ実験動物に敬意をはらって動物実験を行っており、規制に関する特別な配慮を改めて求めたい」と述べた。

引き続き、高杉常任理事が今回会見を行った理由について、「この問題に関する医療界側の意見を表明して欲しいとの要望が関係国会議員等からあった」とした上で、「動物愛護の精神も大事であるが、日本の医療の発展のためにも、実験動物に関しては法規制の枠外にすべき」として、規制強化反対への理解を求めた。

平成 24 年 10 月 29 日

改正労働契約法について、参議院 梅村さとし議員に対応を お願いしました

平成 25 年 4 月 1 日に施行される労働契約法改正では、有期労働契約が 5 年を超えて反復更新され、労働者から期間の定めのない申し込みがあった場合には、無期労働契約が成立します。

大学においては無期雇用への影響が深刻であること、若手研究者においては 5 年間しか雇用されないのではという不安があることから、10 月 29 日、高久会長が全国医学部長病院長会議の別所会長、中谷相談役等と参議院の梅村さとし議員に面会し、大学の研究者は除いていただけるよう要請しました。